

浜松医科大学小児科専門研修プログラム (浜松医科大学医学部附属病院)

1 はじめに

浜松医科大学附属病院小児科は、大学病院としての高度な専門医療を担う施設であり、各専門領域に経験豊富な専門医を有します。また、2次から3次までの救急患者を受け入れる体制も有し、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修できる施設です。



プログラム統括責任者 浜松医科大学小児科教授 緒方 勤

2 目的

本プログラムの目的は、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」という日本小児科学会が推進する小児科医の到達目標に準拠し、特定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修を受けた小児科専門医を育成することです。

このため、本プログラムは、小児の診療に必要不可欠である正常小児の成長・発達に関する知識、ならびに新生児期から思春期までの発達段階に特徴的な疾患特性に関する知識・技能を習得できるように構成されております。さらに小児科医として理解すべき疾患をもれなく経験し、疾患の知識・チーム医療・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につけるとい、小児科医に求められる general physician としての能力も習得できるように構成されております。

専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることをめざしてください。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設

浜松医科大学附属病院小児科

(2) 専門研修連携施設

浜松医療センター、磐田市立総合病院、遠州病院、中東遠総合医療センター、藤枝市立総合病院、静岡済生会総合病院、聖隷沼津病院、富士宮市立病院

4 専攻医受入数

10名

5 研修期間

卒後3-6年。基本は卒後3-5年の3年間であるが、卒後6年目の8月までの研修が小児科専門医試験の研修期間として認められる。また、合否判定は、卒後6年目の12月に行われる。したがって、小児科専門医となるための研修期間は、ほぼ卒後3-6年となる。

6 研修計画（例）

卒後3年目：専門研修連携施設 A
卒後4年目：専門研修連携施設 B
卒後5年目：浜松医科大学小児科
卒後6年目：専門研修連携施設 C
その後小児科サブスペシャリティ研修へ

卒後3年目：専門研修連携施設 A
卒後4年目：浜松医科大学小児科
卒後5年目：専門研修連携施設 B
卒後6年目：専門研修連携施設 C
その後小児科サブスペシャリティ研修へ

卒後3年目：浜松医科大学小児科
卒後4年目：専門研修連携施設 A
卒後5年目：専門研修連携施設 B
卒後6年目：専門研修連携施設 C
その後小児科サブスペシャリティ研修へ

7 問い合わせ先

見学、研修の相談は常時メールまたは電話、FAXで受け付けています。

浜松医科大学小児科、夏目統、福田冬季子、緒方勤

E-mail：info-ped@hama-med.ac.jp

TEL：053-435-2312

FAX：053-435-2311